

42 ガイ病院の創設について

柳澤波香

ガイ病院 (Guy's Hospital) は、書籍商・出版業者であったトマス・ガイ (Thomas Guy, 1644-1724) の慈善の精神と巨万の私財により、ロンドンのサザーク (Southwark) にヴォランタリ・ホスピタルとして設立された。病院は、一七二一年に発案計画され、一七二六年に完成をみた。

トマス・ガイは、廉価版の聖書と祈禱書の出版により成功を治め、その利益をさらに国債と株式に投資し、莫大な富を築いた事業家であった。彼は、幼少時に父親を失い、苦勞の末に大成したので、慈善事業に殊のほか関心を寄せ、収益の多くを様々な慈善事業に寄附した博愛主義者でもあった。

一七〇四年、ガイは、セント・トマス病院の内科医リチャード・ミード (Richard Mead, 1673-1754) と親交が

あったことから、セント・トマス病院の理事となった。千ポンドを寄附して三つの新病棟を完成させた。

一七二〇年、株式相場で莫大な利益を得たトマス・ガイは、この巨富を、年来の構想であった新しい病院の設立に充てようと決意した。一七二一年、セント・トマス病院の隣地を取得し、病院の建設が始まった。ガイは、不治の病の患者を収容するために、新しい病院をセント・トマス病院の隣に設立しようと考えたのである。当時、セント・トマス病院などでは、不治の病の患者の入院は許可されていなかった。また、入院中にながれと診断された患者も退院を余儀なくされていた。これは、患者数の増大に病院が対処しきれなかったためである。さらに、同一病院への再入院も認められていなかった。快復の見込みも生活への希望も無いままに、入院を拒まれて悲嘆に暮れる貧しく病める患者に深く心を痛め、ガイは不治の病者のケアの必要性を認識し、病院の創設を考えたのである。なお、一八世紀前半に設立された他のヴォランタリ・ホスピタルが既存の建物を転用、改装して設立されたのに対し、この病院はロンドンで初

めて病院としての用途を考慮して壮大なスケールで設計された建造物であった。

一七二四年、ガイは病院開院を見ることなく八〇歳で没した。彼の功績を称えて病院はガイ病院と名付けられ、遺言に従い、セント・トマス病院の九名の理事を中心として完成した。ガイは遺言の中で、受入患者数、病院理事会および役員会の業務分掌、権限、構成員数と任期、改選等に関して細かな規定を行っていた。病院の運営が円滑に進展するように配慮したためである。

ガイ病院は一七二六年、六〇床で開院した。設立直後から患者数は急増した。病院創設の理念は、不治の病に悩む患者の収容であったが、すぐにガイ病院は一般病院と化してしまった。

しかしながら、ガイ病院は、多数の症例、スタッフの充実により、セント・トマス病院との連携を保ちながら、十八世紀イングランドの臨床医学の興隆に大いに寄与した。内科医ミードはガイの没後もセント・トマスの内科医を務めつつ、ガイ病院でも週二日回診を行ない、両病院は医学教育の現場でもあった。

一九九三年四月、英国政府の医療行政改革の一環として、ガイ病院とセント・トマス病院は統合され、Guy's and St Thomas' Hospital NHS Trustとなった。現在では七千人のスタッフが年間七十五万人の患者の診療に携わっている。

統合後もガイ病院は設立当初と同じ場所にあり、現在でも一八世紀当時の建物を見ることができ。一書籍商の強い意思と私財を以って創設された病院は、英国有数の病院として機能し、ロンドン市民に医療サービスを提供し続けている。

(津田塾大学)